



都大会

高校野球都大会は27日、東大会の準決勝2試合が行われ、国士館と成立学園が頂上決戦に名乗りを上げ

東京都

高校野球都大会は27日、東大会の準決勝2試合が行われ、国士館と成立学園が頂上決戦に名乗りを上げ

た。国士館は、昨夏の覇者帝京を2安打に抑える守備と、終盤の好機に一気に加

点する試合運びで、2006年以來の決勝進出。成立学園は、試合終盤に4年連

続4強の底力をみせて岩倉との投手戦を制し、初めて

決勝に駒を進めた。28日は

西大会の決勝、日大三と佼

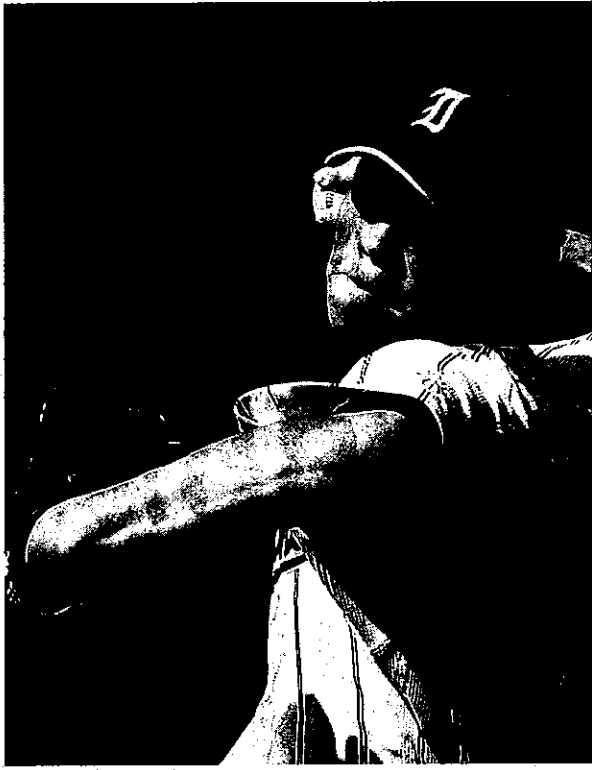
成学園が午後1時から行わ

れる。東大会の決勝は29日

に予定されている。

岩倉力尽きる

息もつかせぬ投手戦の均衡が破れたのは六回。成立学園は四球で出た走者が悪送球で生還すると、9番小柳の左前適時打でさらに1点を追加。八回には、四球や犠打で二死満塁とした場



「何でもこんなタイミングで……」。岩倉の金城直人投手(3年)が右ひじの痛みをはっきり自覚したのは6月中旬、念願の背番号1を手に入れた直後のことだった。そして決めた。監督には言わないでおこうと。ライバルの主将秋月健太投手(3年)と激しいエース争いを繰り広げた。昨年の秋の時点では、実力に大きな差があることはわかってきた。だが、秋月投手は肩を壊し、約半年間戦線を離脱。「チャンスと言ったら悪いが、今のうちに追いつこうと思った」。30本のダッシュ練習で31本走り「ツッシューム」などの新たな球

代償はひじ痛 金城沈む

種もひそかに増やした。人の何倍もの努力を重ねて得たエースナンバーだった。がその代償も大きかった。14日の3回戦で完封勝利を取るも、ひじの痛みは限界に達した。変化に気づいた磯口洋成監督からしきりに「大丈夫か」と声をかけられる。「これ以上黙っていたら迷惑をかける」。監督と2人きりのベンチ裏で、故障を打ち明けた。痛み止めを飲んで戦線に立ったが、背番号7の秋月投手にマウンドを譲る試合が増えた。自己最速141キロを記録し、自分とは裏腹に調子を上げていくライバルを複雑な気持ちで眺めた。(鶴田裕介)

面で、1番北原が2点適時打を放ち、試合を決めた。岩倉は九回、代打の渡部がソロ本塁打で一矢報いたが、相手と同じ6安打を放

いた。九回表、5点を追う岩倉の攻撃。監督に「ナベショー行けー 思い切り振ってこい!!」と肩をたたかれ、渡部翔選手(3年)は代打として本大会4度目の打席に立った。これが野球人生「最後の打席」。「三振になっても

いいから思い切り振ろうと思いましたが」。内角高めのストリートを捉えた打球は高く舞い上がり、左翼スタンドに飛び込んだ。チームのムードメーカー「ナベショー」は試合後、「いつか地元で、野球の話で盛り上げられるような居酒屋を経営したい」と照れくさそうに夢を語った。

Scoreboard table for the Tokyo Metropolitan Baseball Championship. It lists teams like 岩倉 (Iwano) and 成立学園 (Seiryu Gakuen) with their respective statistics (hits, runs, errors, etc.).

第94回全国高校野球選手権大会の東・西東京大会(都高野連、朝日新聞社主催、毎日新聞社後援)は27日、神宮球場(新宿区)で東大会の準決勝2試合があった。国士館が七回の好機に5安打を集中し、昨夏の優勝校の帝京を突き放した。成立学園は2年生の谷岡竜平投手が好投し、岩倉に反撃のすきを与えなかった。決勝は29日午後1時から同球場で行われ、国士館は7年ぶり2回目、成立学園は初の夏の甲子園出場をかけて対戦する。28日は午後1時から西大会の決勝戦が同球場で行われる。

【斎藤有香、平林由梨】

岩倉、好機生かせず

▽準決勝
岩倉 00000000011
成立学園は六回2死走り、三塁で、失策と小柳の左前適時打などで

2点を先制。八回には2死満塁で北原の右前適時打などで3点を加え、突き放した。主戦・谷岡は九回、渡部に本塁打を許したが、八

回までを散発5安打の無失点に抑えた。岩倉は三回に2死一、三塁、四回は1死二、三塁の好機を迎えたが、適時打が出なかった。

カーブ狙い適時打

との対決となったが「特に意識はせず、初

「特に意識はせず、初戦から同じ気持ちで戦っていた」と話した。

と闘志を燃やしていた。

接戦を勝ち上がってきた成立学園は、岩倉に4点差をつけ快勝した。菅沢剛監督は岩倉は八回、「相手が変化球でカウントを取る投

手だ」と分析し、カーブを狙って左前適時打を放った。3打数3安打と好調だったが、決勝戦については「変に意識をせず、『8回戦』というつもりで戦いた

フルスイングで一矢

レフトフライか。全力疾走で一塁ベースを回ったあたりで応援の三塁側スタンドの大歓声が聞こえた。入ったんだ。こわばった表情が緩み、笑顔に変わった。しかし、本塁打の余韻を

楽しむ余裕はなかった。生来のはにかみ屋。速度を落とさずダイヤモンドを一周しベンチに駆け込むと、磯

球を強振すると、打球は弧を描いてレフトスタンドに吸い込まれた。高校通算3本目の本塁打になった。



八保玲撮影

岩倉 渡部 翔選手(3年)



【平林由梨】

岩倉	0
成立学園	0
計	316 1

岩倉	0
成立学園	0
計	296 3

岩倉	8
成立	3
計	296 3